

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

まちだ納税貯蓄組合連合会 会長賞

『僕らの生活を豊かにしてくれる税金』

町田市立南中学校 3学年 鈴木 康祐

今回、税金の勉強をしたことで、僕は半年前に起こった事故を思い出した。埼玉県八潮市で起きた道路陥没事故だ。道路を車で走っていたら急に地面が陥没する。そんなことは考えもしなかった。もつ救助されたかな？と毎朝ニュースを見ていたが、逆に穴が広がり、下水をなるべく減らすように注意喚起もされ、事態がどんとんびどくなっていたように僕の目に映った。

少し経ってから運転手の方が遺体で見つかったとニュースで見た。しかも大掛かりな工事が必要な救助現場になっていて、完全復旧にも五く七年かかるというニュースで見て、とても驚いた。

それ以降も同じような陥没事故をニュースで見たが、公共事業は税金が使われているはずなのに、いったいなぜこんなことが次々起こるのか僕は不思議に思った。

今回、税金の学習をきっかけに調べてみると、今の日本のインフラが老朽化の時期を迎えていることが原因だった。

日本では第二次世界大戦後、急速な経済成長を遂げ、都市への人口流入が進み、下水道などインフラ整備が急ピッチで進められるようになった。高度経済成長期の一九五〇年代～七〇年代においては、特に電気やガス、水道、

道路、公共交通機関など僕らの生活に無くてはならないものが次々と普及されていった。

インフラの耐用年数は約五十年ということを知った。そのため今回の事故が起きてしまった。これを書いている時にも水道管の破裂で道路が陥没したニュースを伝えていた。やはり、老朽化対策を急いで行わなければならない、税金を使って僕らの未来の生活を安定させる必要があると感じた。

このインフラ整備に関して国土交通省は、二〇一八年に「二〇一九年～四八年度までに必要な費用は最大一九四兆六千億円になる」との見込みを発表していた。約二十年後となると、ちょうど僕らが納税している時期と重なる。祖父母や更にその前の世代が作った日本を僕らが維持するために税を納めるんだと考えると責任感が湧いてきた。

僕らの生活は当たり前ではない。教育費も医療費も年金も公的サービスも全ては税金で守られている。

僕らは増税のニュースを見るたびに悲観的になりがちだが、今回の参院選で減税や給付という言葉を見て、逆に不安になった。現在の少子高齢化社会において、安定した生活を守るためには責任感をもって税について考えなければならぬと思ったからだ。

僕らの生活を豊かにしてくれる税金。何気なく送っている学校生活も、多くの税金から成り立っていると思うと感謝の気持ちが増える。今後、納税者として義務を果たせるよう、一日一日を大切に過ごしていきたい。